

資料 3－2

血液製剤に関する報告事項について（目次）

○ 輸血用血液製剤で HIV 感染が疑われた事例について	3
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 16 年 3 月 22 日報告)について	4
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 16 年 11 月 26 日報告)について	5
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 17 年 1 月 12 日報告)について	7
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 17 年 2 月 4 日報告)について	9
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 17 年 6 月 23 日報告)について	11
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 18 年 4 月 7 日報告)について	12
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 18 年 6 月 5 日報告)について	13
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 19 年 2 月 20 日報告)について	14
○ 輸血用血液製剤で HCV(C 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 18 年 2 月 15 日報告)について	15
※●は今回の新規症例	
○ 平成 20 年度感染症報告事例のまとめ (平成 21 年 1 月 29 日報告分以降)について	17
○ 輸血後 HEV 感染の予防対策(問診・NAT の状況)	27

＜参考＞

- ・ 血液製剤に関する報告事項について
(平成 21 年 4 月 16 日付け血液対策課事務連絡) 33
- ・ 血液製剤に関する報告事項について(回答)
(平成 21 年 1 月 14 日付け日本赤十字社提出資料) 35
- ・(参考)安全対策業務の流れ 37

輸血用血液製剤で HIV 感染が疑われる事例について

1. 経緯等

平成 15 年 9 月 5 日、後天性免疫不全症候群発生届にて感染経路として輸血が考えられる HIV 感染者が報告されたとの情報を入手。同日、当該報告医が、同事例について副作用感染症報告を日本赤十字社に提出、これを受け同社による調査が開始され、その結果が、平成 15 年 10 月 30 日に開催された第 95 回エイズ動向委員会（委員長：吉倉廣国立感染症研究所長）に報告された。

2. 事例

50 歳代の男性で平成 15 年の 3 月～7 月に赤血球製剤 (M A P 16 単位) の輸血を受けた後、実施した血液検査において H I V 感染を確認 (W B 検査陽性)。報告医は感染経路として輸血を疑っている。

3. 事実関係

1) 輸血された輸血用血液製剤について

- ・当該感染者には、8人の供血者から採血された赤血球製剤 (M A P) が 8 本（保管検体の個別N A T はいずれも陰性）投与された。

2) 他の血液製剤への影響について

- ・投与された赤血球製剤の原料血液からは、他に新鮮凍結血漿と血漿分画製剤用の原料血漿が製造されていた。
- ・原料血漿については流通を停止。
- ・新鮮凍結血漿については 3 本が製造されており、既に他の医療機関で 3 名の患者に投与されていた。（他に行方不明の製剤はない。）

3) 新鮮凍結血漿の投与を受けた 3 名について

- ・1 名は既に原疾患により死亡
- ・残り 2 名については輸血後（約 6 カ月後）の抗体検査で陰性。

4. エイズ動向委員会での専門家からの意見

記者会見では、「HIV の感染が輸血用血液製剤によるか追求すれば、患者のプライバシーに関わりうるケースである。」との発言があった。

5. エイズ動向委員会後の事実経過

- 1) 健康状態の確認を行っていた 2 名の受血者は、いずれも感染していないことが確認された。
- 2) 供血者の次回献血での検査については、8 名中 6 名が来訪し、感染していないことが確認された（平成 21 年 4 月 21 日現在、残る 2 名のその後来所なし）。

6. 今後の対応

当該感染者のプライバシーの最大限尊重を徹底しつつ、引き続き調査を継続するよう指導してまいりたい。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 (3月22日報告)について

1 経緯

平成16年3月22日及び30日、日本赤十字社から輸血（人血小板濃厚液及び人赤血球濃厚液）によるHBV感染の疑い事例の報告があった。

2 事例

70歳代の女性。原疾患は急性骨髓性白血病。平成15年10月5日～平成16年1月22日の間に、輸血を計18回（人血小板濃厚液10単位を11袋分並びに人赤血球濃厚液1単位を3袋分及び2単位を4袋分）受ける。

輸血前の血液検査（平成15年10月3日）ではHBs抗原及び抗体検査（B型肝炎ウイルスの検査）はいずれも陰性であったが、輸血後の平成16年3月19日に実施したHBs抗原検査は陽性、肝機能検査（GOT、GPT及びLDH）は高値を示す。

患者は4月26日に死亡したことを確認済み。死因は呼吸不全及び腎不全。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- 当該患者には、37人の供血者から採血された血小板製剤及び赤血球製剤を輸血。
- 当該製剤に関わる血漿のうち、4人分由来の5本が新鮮凍結血漿（FFP）として医療機関へ供給された（残りは原料血漿）。

(2) 37人の供血者について

37人の供血者のうち、32人の献血者がその後献血しており、検査は陰性であった。（平成21年4月21日現在、残る5人のその後の来所なし）。

(3) 供血者の個別NATの試験結果

供血者37人の保管検体について、個別NATを実施したところ、全て陰性であった。

(4) 患者の保管検体の個別NAT及びHBs抗原の試験結果

平成16年3月19日（輸血後）の医療機関に保管されていた患者検体は個別NAT及びHBs抗原検査はいずれも陽性（輸血前は保管されていなかった）。

(5) 輸血とHBV感染との関連

現在のところ、輸血とHBV感染（当該事例の死亡原因を含む）の因果関係については不明。

4 今後の対応

(1) 当該事例への対応

- 医療機関へ供給した5本の新鮮凍結血漿に関して情報提供した医療機関における受血者（患者）5名の健康状態を確認した結果、輸血後陰性が2名、不明が3名であった。
- 37人の供血者のうち、その後献血に来ていない5人のフォローを行う。

(2) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 (11月26日報告)について

1. 経緯

平成16年11月26日、日本赤十字社から輸血（新鮮凍結血漿）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2. 事例

70歳代の男性。原疾患は消化器腫瘍（転移性肝癌を含む。）。平成16年3月12日から15日まで4日間に亘り、プロトロンビン時間延長のため、輸血を（新鮮凍結血漿合計36単位23本）受ける。

輸血前の血液検査（2月28日）では、HBs抗原検査陰性であったが、平成16年10月4日に肝機能検査値異常がみとめられ、黄疸を呈したため、10月8日に検査したところ、HBs抗原陽性、HBs抗体陰性が確認され、急性B型肝炎と診断された。11月17日に右大量胸水を呈した後、呼吸状態悪化により死亡した。また、平成15年5月の手術の際にも新鮮凍結血漿2単位22本、赤血球MAP2単位3本の輸血を受けている。

3. 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には平成16年3月の輸血時に23人の供血者から採血された新鮮凍結血漿を輸血。また、平成15年5月に25人の供血者から採血された新鮮凍結血漿及び赤血球MAPを輸血。
- ② 平成16年3月輸血の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は2本が確保、10本は使用済み、新鮮凍結血漿10本及び赤血球MAP23本は全て医療機関に提供済み。
- ③ 平成15年5月輸血の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿21本は使用済み、新鮮凍結血漿6本及び赤血球MAP22本は全て医療機関に提供済み。

(2) 48人の供血者について

- ① 平成16年3月の輸血時の供血者23人のうち、20人が再献血し、再献血時の検査結果は19人がHBV関連検査陰性、1人はHBc抗体はEIA法陽性、H1法陰性、HBs抗体（EIA法）陽性（NAT及びHBs抗原陰性）であった。なお、この1人の献血時のHBc抗体はEIA法で陽性、HBs抗体も陽性であった（平成21年4月21日現在、残る3人のその後の来所なし）。
- ② 平成15年5月の輸血時の供血者25人のうち、21人が再献血し、再献血時の検査結果はHBV関連検査陰性であった（平成21年4月21日現在、残る4人のその後の来所なし）。

(3) 供血者個別NATの試験結果

- ① 平成16年3月の輸血時の供血者23人の供血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、すべて陰性であった。
- ② 平成15年3月の輸血時の供血者25人の供血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、すべて陰性であった。

4. 今後の対応

(1) 供血者48人のうち、7人の再献血・検査に係るフォローを行う。

(2) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

(3) その他

- ① 受血者の輸血後検体(10月12日)を確保し、再検査したところ、HBs 抗原 (+)、HB s 抗体 (-)、HB c 抗体 (+)、HB V-DNA (+) であった。
- ② 受血者の肝癌については、平成15年に施術され、平成16年10月の腹部CTでは再発が認められておらず、肝癌と肝障害との因果関係はないものと考えられる。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 (1月12日報告)について

1 経緯

平成17年1月12日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液、血小板濃厚液）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60歳代の男性。原疾患は血液疾患。平成16年1月8日から5月25日まで12回にわたり、輸血（赤血球濃厚液合計26単位、血小板濃厚液合計30単位）を受ける。

輸血前の血液検査（1月8日）では、HBs抗原検査陰性であったが、平成16年11月18日に食欲不振のため、検査したところ、HBs抗原陽性が確認され、同22日の採血の検体で、HBs抗原（+）、HBs抗体（-）、HBc抗体（+）、HBV-DNAのNATの（+）も確認された。平成17年1月8日劇症肝炎を呈した後、肝不全により死亡した。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には16人の供血者から採血された赤血球濃厚液及び血小板濃厚液を輸血。
- ② 輸血の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は3本が確保、12本は使用済み、新鮮凍結血漿12本は全て医療機関に提供済み。

(2) 16人の供血者について

- ① 輸血時の供血者16人のうち、12人が再献血し、再献血時の検査結果はHBV関連検査（-）であった。（平成21年4月21日現在、残る4人のその後の来所なし）
- ② 供血時保管検体の2人の陽性血から、原料血漿2本、新鮮凍結血漿が2本製造され、原料血漿は使用済み、新鮮凍結血漿も使用済みであった。当該新鮮凍結血漿の受血者2名のうち、1人は輸血後11日目で死亡、もう1人はHBs抗原検査（-）であった。

(3) 供血者個別NATの試験結果

- ① 輸血時の供血者16人の供血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、2人がNAT（+）であった。
- ② 当該2人は、共に、複数回再献血を行っているが、再献血時にHBV関連検査（-）であり、HBc抗体及びHBc抗体-IgMは（-）、個別NATも共に（-）であった。
- ③ 当該2名の供血時の保管検体のウイルス解析の結果、共に、ゲノタイプCサブタイプadrと推定、また、497番目と498番目の間に12塩基が挿入した極めて特殊な変異株と挿入のない野生株が存在していた。これらは、受血者の血液も同様に挿入のある変異株と挿入のない野生株を有しており、三者のウイルスのシークエンスは完全に一致した。

4 今後の対応

(1) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

(2) 輸血時の供血者16人のうち、再献血に訪れていない4人について引き続き、調査

する。

(3) その他

- ① 供血時保管検体でN A T (+) となった2名は、その後の再献血の検査がすべて（-）であり、HBc抗体も（-）であり、感染歴があった可能性は低い。
- ② また、発見されたウイルスのシークエンスは稀なものであり、これらが偶然に保管検体2本一致することは考えにくい。
- ③ 当該供血者の血液から同時に製造された新鮮凍結血漿の受血者で感染は発生していない。
- ④ 以上のことから、N A T時に受血者血液が供血者サンプルに混入する等の測定上の誤差が発生した可能性も考えられる。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 (2月4日報告)について

1 経緯

平成17年2月4日、日本赤十字社から輸血（人赤血球濃厚液）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60歳代の男性。原疾患は悪性腫瘍。平成16年9月8日から11月24日まで、貧血のため、輸血を計9回（人赤血球濃厚液合計14単位）を受ける。

輸血前の血液検査（平成16年8月3日及び9月8日）では、HBs抗原検査陰性であったが（9月8日はHBs抗体及びHBc抗体検査も陰性）、平成16年11月24日の輸血時にHBs抗原検査陽性が確認された（HBs抗体及びHBc抗体検査は陰性）。

平成17年1月26日の輸血施行時に、HBs抗原検査陽性に加え、HBc抗体検査が陽性となり（HBs抗体検査は陰性）、1月31日には黄疸が出現するとともに、肝機能検査で高値を示し、2月2日に劇症肝炎により死亡した。

なお、当該患者の輸血前血液（平成16年9月8日）の保管検体のHBV-NATは陰性で、輸血後血液（平成16年10月21日）はHBV-NATは陽性であった。輸血後血液から検出されたHBVは、ジェノタイプB、サブタイプadw、CP/Pre-C領域はe抗原が産生できない変異株であった。HBV-DNA量は 2.9×10^{10} Copies/mLであった。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には9人の供血者から採血された赤血球濃厚液を輸血。
- ② 9人の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿7本及び新鮮凍結血漿2本を確保済み。残りの新鮮凍結血漿2本は医療機関へ供給済みであるが、医療機関への情報提供は実施済み。

(2) 9人の供血者について

- ① 供血者9人のうち、当該患者の平成16年10月21日採血の輸血後血液がHBV-NAT陽性であったことから、10月21日輸血以前（9月8日～9月10日）の輸血に係る4人の供血者に対して供血者に呼び出しの協力を依頼し、3人は再献血又は再採血済み。
- ② 10月21日輸血以降の供血者について、2人がその後再採血検査済み。
- ③ ①及び②の計5名については、HBV個別NATを含めHBV関連検査は陰性だった。ただし、①の3名のうち、1名はHBc抗体がEIA法のみ陽性、HI法は陰性だった。（平成21年4月21日現在、残る1名のその後の来所なし。）

(3) 供血者個別NATの試験結果

輸血時の供血者9人の供血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、すべて陰性であった。

4 今後の対応

(1) 9月8日～9月10日輸血の4人の供血者のうち、残る供血者1人の再献血・検査に係るフォローを行う（再採血の依頼中）。

(2) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

(3) その他

悪性腫瘍の治療にプラチナ系抗癌剤等（8月18日）及びテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム（11月10日）を使用しており、薬剤性の劇症肝炎の疑いも完全には否定できない。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 (6月23日報告)について

1 経緯

平成17年6月23日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液及び新鮮凍結血漿）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

50歳代の男性。原疾患は消化管腫瘍。平成17年2月3日に手術施行のため、赤血球濃厚液合計8単位、新鮮凍結血漿合計30単位を受ける。

輸血前の血液検査（平成16年12月）ではHBs抗原検査陰性、輸血後の平成17年4月6日でもHBs抗原検査陰性であったが、退院時の平成17年4月21日にHBs抗原検査陽性が確認された。

その後、平成17年6月13日に発熱、全身倦怠感等出現し、肝機能値が高値を示し、6月16日再入院、6月20日には、HBs抗体、HBc抗体、HBc抗原、HBc抗体のいずれも陽性が確認された。また、同日のHBcのIgM抗体も陽性であり、劇症肝炎と診断される。

患者は、7月3日にB型劇症肝炎にて死亡した。

患者の検体のHBVの解析結果は、ジェノタイプC、サブタイプad rであり、CP/Pre Core領域の塩基配列の解析からPreC部位には変異はなく、CP（Core Promoter）部位に変異があるCP変異、PreC野生株であった。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には20人の供血者から採血された赤血球濃厚液等を輸血。
- ② 20人の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は17本のうち10本が確保、新鮮凍結血漿6本のうち3本は確保済み。15本の赤血球濃厚液はすべて医療機関へ供給済み。医療機関への情報提供は実施済み。

(2) 20人の供血者について

供血者20人のうち、16人が再採血・献血に来場（HBV関連検査は陰性）。（平成21年4月21日現在、残る4名の来訪なし。）

(3) 供血者個別NATの試験結果

輸血時の供血者20人の供血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、すべて陰性であった。

4 今後の対応

- (1) 供血者4人の再献血・検査に係るフォローを行う（再採血の依頼中）。
- (2) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例（4月7日報告）について

1. 経緯

平成18年4月7日、日本赤十字社から輸血（濃厚血小板、赤血球濃厚液）によるHBV感染疑いの症例の報告があったとの報告が、日本赤十字社からあった。

2. 事例

患者は、40代の男性で、原疾患は血液腫瘍。平成16年7月から平成17年2月に（濃厚血小板計30単位、赤血球濃厚液計48単位）、平成17年3月から5月に輸血（濃厚血小板計130単位、赤血球濃厚液計18単位）を受ける。

最初の輸血から8ヶ月後の平成17年2月22日にはHBs抗原、HBs抗体、HBc抗体全て陰性だったが、平成18年3月に肝不全となり、4月3日にHBs抗原、HBc抗体についても陽転が確認された。輸血後の平成17年5月23日の保管検体において、HBV-NATは陰性であったが、6月8日の保管検体において、HBV-NATは陽性であった。なお、HCV抗体は輸血前から陽性であった。

その後主治医は、亜急性劇症肝炎と診断。（4月7日 ALT67IU/mL, T-Bil3.57mg/dL, PT-INR2.30）患者は5月19日に肝不全により死亡。

3. 感染についての状況

(1) 輸血された血液製剤について

① 当該患者に投与された血液製剤の供血者数は31人（H16年7月～H17年2月）及び22人（H17年3月～5月）

※被疑製剤の対象をH16年7月まで拡大して調査

② 当該供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿51本のうち44本使用済みで7本確保済み。新鮮凍結血漿14本はすべて医療機関へ供給済み。

(2) 供血者個別NAT

供血者個別NATは53人分全て陰性。

(3) 供血者に関する情報

① 供血者31人のうち、22人が献血又は事後採血に再来し、21人はHBV関連検査陰性。1名はHBs抗体のみ陽性（平成21年4月21日現在、残る9名の来訪なし）。

② 供血者22人のうち、22人すべてが献血又は事後採血に再来し、20人はHBV関連検査陰性。2名はHBc抗体及びHBs抗体陽性。

(4) その他

平成17年4月8日、骨髄バンクからの同種骨髄移植を施行。ドナーはHBsAg(-)、HBsAb(-)、HBcAb(-)であった。

4. 今後の対応

(1) 供血者9人の再献血・検査に係るフォローを行う

(2) 「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤で HBV (B 型肝炎ウイルス) 感染が疑われた事例 (6月5日報告)について

1 経緯

平成 18 年 6 月 5 日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液及び新鮮凍結血漿）による H B V 感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

80 歳代の男性。原疾患は消化器疾患。平成 17 年 10 月 22 日から 11 月 29 日までの間に赤血球濃厚液合計 18 単位、新鮮凍結血漿合計 36 単位を受ける。

輸血前の血液検査（平成 17 年 8 月 31 日）では H B s 抗原検査陰性、AST 16 及び ALT 12 であった。輸血後の平成 18 年 5 月 2 日に、AST、ALT の上昇がみられ、同月 19 日に H B s 抗原検査陽性であり、AST 683、ALT 693 であった。同患者については、上記の他、次の検体が医療機関に保管されており、それらを検査した結果は次のとおりあった。

輸血前 H17. 10. 22 HBV-DNA 陰性

輸血後 H17. 11. 13 HBs 抗原陰性、HBs 抗体陰性、HBc 抗体陰性

輸血後 H17. 11. 24 HBs 抗原陰性、HBs 抗体 EIA 法陽性／PHA 法陰性、HBc 抗体陰性

輸血後 H17. 11. 27 HBV-DNA 陰性

輸血後 H18. 06. 02 HBs 抗原陽性、HBs 抗体陰性、HBc 抗体陽性、HBV-DNA 陽性

その後、平成 18 年 6 月 12 日に死亡。急性肝炎から劇症肝炎に至り、肝不全による死亡と考えるとの担当医の見解である。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には 29 人の供血者から採血された赤血球濃厚液等を輸血。
- ② 29 人の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は 27 本のうち 11 本が確保、16 本が使用済み。新鮮凍結血漿 8 本のうち 6 本は確保済み、2 本は医療機関へ供給済み。18 本の赤血球濃厚液はすべて医療機関へ供給済み。

(2) 29 人の供血者について

供血者 29 人のうち、28 人が再採血・献血に来場（28 名のHBV-DNAは全て陰性、そのうち 2 名はHBs抗体及びHBc抗体陽性、1 名はHBs抗体のみ陽性、残る 24 名は HBV 関連検査陰性）。（平成 21 年 4 月 21 日現在、残る 1 名の来訪なし。）

(3) 供血者個別 NAT の試験結果

輸血時の供血者 29 人の供血時の保管検体について、個別N A T を実施したところ、すべて陰性であった。

4 今後の対応

- (1) 供血者 1 人の再献血・検査に係るフォローを行う（再採血の依頼中）。
- (2) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 (2月20日報告)について

1 経緯

平成19年2月20日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60歳代の男性。原疾患は消化器腫瘍。平成18年8月3日に、輸血（赤血球濃厚液合計4単位3本）を受ける。

輸血前の血液検査（平成18年7月11日）ではHBs抗原検査陰性であったが、輸血後の平成18年9月26日に、HBs抗原検査陽性となった。10月24日の恶心、嘔吐、腹痛にて受診、AST 1364、ALT 1306、肝不全を認める。10月25日に多臓器不全により死亡。感染経路が不明であるが、輸血によるHBVの感染が否定できないとの担当医の見解である。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

①当該患者には3人の供血者から採血された赤血球濃厚液を輸血。

②当該製剤と同一供血者から製造された3本の原料血漿は全て確保済み。

（2）3人の供血者について

3人の供血者のうち、2名が再採血・献血に来場（2名のHBV関連検査は全て陰性）。

（平成21年4月21日現在、残る1名の来訪なし。）

（3）供血者個別NATの試験結果

輸血時の供血者3人の供血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、全て陰性であった。

4 今後の対応

（1）供血者1人の再献血・検査にかかるフォローを行う。

（2）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でC型肝炎が疑われた事例 (2月15報告)について

1 経緯等

平成18年2月15日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液）によるHCV感染の疑いの症例の報告があった。その後、当該症例の死亡が確認され、日本赤十字社から3月8日に追加報告があったものである。

2 事 例

70歳代の男性。原疾患は血液腫瘍。平成17年8月13日から平成18年1月30日までの間に、輸血（濃厚血小板液10単位47本、赤血球濃厚液2単位21本、新鮮凍結血漿5単位7本、同2単位4本、同1単位2本）を実施。患者は、2月19日に急性循環不全により死亡。患者の輸血前（8月12日）のHCV抗体検査は陰性であったが、本年1月30日にHCVコア抗原の陽性が確認され、2月14日のAST／ALTは67／192であった。

3 状 況

(1) 輸血された輸血用製剤について

- 当該患者には、81人の供血者から採血された赤血球製剤、血小板製剤及び新鮮凍結血漿を輸血。
- 当該製剤と同一供血者から製造された70本の原料血漿のうち67本は確保・廃棄済み（3本は使用済み）。新鮮凍結血漿は、14本製造で11本確保済み（3本は医療機関供給済み）。赤血球製剤6本は医療機関供給済み。

(2) 検体検査の状況

- 保管検体81本のHCV個別NATはすべて陰性。
- 供血者81人中78人が献血に再来又は再採血し、HCV関連検査は陰性であった（平成21年4月21日現在、残る3人のその後の来訪なし）。

(3) 患者検体の調査

- 輸血後の検体でHCV-RNA陽性が確認された。

(4) 担当医の見解

- C型肝炎が死期を早めたと思われるが、輸血かC型肝炎の原因であるとの証明はされていないとのこと。

(5) 併用薬等

- ・ 当該患者は、輸血と同時期に乾燥アンチトロンビン、乾燥スルホ化グロブリン、人血清アルブミンを併用していた。

4 今後の対応

- (1) 今後、遡及調査ガイドラインの徹底を進める。
- (2) 再来していない供血者3人のフォローアップを引き続き行う。

平成21年度感染症報告事例のまとめ（前回報告分以降）について

1 平成21年1月29日から21年4月14日までに報告によるものと調査した間に報告（新規及び追加）があつた感染症報告35件である。輸血用血液製剤事例は、

- (1) B型肝炎 14
- (2) C型肝炎 3
- (3) HCV 0
- (4) その他 2

2 B型肝炎報告事例 輸血前後に抗体検査でHBs抗原（又はHBV-DNA）等が陽転した事例は8例（うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は0例）。

- (1) 血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性の事例は2例。
- (2) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例（劇症化例含む。）である。

3 C型肝炎報告事例 輸血前後に抗体検査（又はHCV-RNA）等が陽転した事例は1例（うち、輸血後NATで陽性又は輸血前後で陽性は0例）。

- (1) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
- (2) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。

4 HCV報告事例 輸血前後に抗体検査等が陽転した事例は0例。

- (1) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
- (2) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。

5 その他感染症報告事例

- (1) B型肝炎及びC型肝炎以外の肝障害報告事例は0件。
- (2) 細菌等感染症報告事例は0例。輸血後死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。

※症例一覧表において、事前発送資料からの修正・更新点は赤字で表記した。

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	患者性別	年齢	原疾患名	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	投与後検査例(疑い例を含む。)	献血者陽性事例	輸血によるHBV感染報告例(疑い例を含む。)	献血者再献血※	使用単数	同一供血者製剤保※	同一供血者製剤保※	同一供血使※用※	感染症等転帰	転帰	供血者発達の供血者発達の場合の保管検査(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	献血者検体(HB)陽性保管検体とでPreS/S領域を含むP領域の前半部の1550bpの塩基配列を比較したところ、1箇所において相違が見られ、それが以外では献血者検体に塩基の混在があり、混合箇所では患者検体でそのうちの1塩基が存在していた。その他の箇所は全て一致した。献血者ヘルペスGenotype Cで塩基配列からSubtypeはadrと推定した。	
											献血者個別NAT										
3-A-000 000 002	A-0900 0900 0018	2009/3/30 2009/4/14	2009/4/14 ～LR	女	B型 先天性疾患	HBsAg(-) (08/09) HBV-DNA(+) HBsAg(-) (08/05) HBsAb(-) (09/03)	HBsAg(-) (08/08)	HBV-DNA(+)	HBV-DNA(+)	HBV-DNA(+)	HBsAg(-) (08/05)	HBsAg(-) (08/05)	HBsAb(-) (09/03)	HBsAg(-) (08/05)	HBsAb(-) (09/03)	HBsAg(-) (08/05)	HBsAb(-) (09/03)	HBsAg(-) (08/05)	HBsAb(-) (09/03)	HBsAg(-) (08/05)	HBsAb(-) (09/03)

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	患者性別	年齢	原疾患名	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	投与前検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血使用者製剤保※	同一供血使用者製剤保※	感染症等転帰	転帰	供血者発達の供血者(抗原、抗体)(投与時点)	患者検体と献血者検体との場合の検査値												
3-A-0900863	3-A-0900863	2009/3/18	2009/3/31	女	30	人血小板濃厚液(放射線照射)	B	(08/04)	—	HBsAg(+) (08/06)	HBsAg(+) (08/06)	HBV-DNA(-) (08/04)	HBV-DNA(-) (08/11)	HBsAg(+) (08/11)	HBsAg(+) (08/04)	HBsAg(+) (08/04)	HBsAb(-)	HBcAb(+)	IgM-HBcAb(+)	(08/12)	HBV-DNA(+)	HBsAg(+) (09/02)	HBsAb(-)	HBcAb(+)	(09/03)	HBV-DNA(-)	9/11 (HBV陽性)	120 単位	次回 08年5月30日 スクリーニング NAT (HBV)陽性 (〔陽転血液〕)	9/11 (HBV陰性)	120 単位	同時期に輸血された11本について、11本の原料血漿を製造。	重篤	未回復	患者検体と献血者検体との前半部の塩基配列を比較したところ、1箇所に相違が見られ、それ以外では献血者で30カ所に塩基の混在があり、混在箇所では患者検体でそのうちの15箇基が存在した。その他の箇所はすべて一致した。献血者と患者のHBウイルスはGenotype Cで塩基配列からSubtypeはadrとadvの混在型、献血者はadrとadvの混在型、患者はadrとadv定じた。

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	患者性別	原疾患名	感染症年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	投与後検査(年月)	受血者個別NAT	献血者個別NAT	献血者個別NAT	備考	併用血液製剤等	使用単数	供血者再献血※	同一供血使用者製剤保※	同一供血使用者製剤保※	感染等転帰	転帰	供血者発見の場所(抗原、抗体(NAT)検査時点)	供血者発見の場所(抗原、抗体(NAT)検査時点)								
										HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/06)																				
3-000 0800 2/6 9	A- 0852	2009/2/18	2009/2/18	男0	小人血板濃厚液(放射線照射) 新鮮凍結人血漿 人赤血球濃厚液(放射線照射) -LR	B型肝炎	08/05 -09 08/05 -09 08/06 -07	HBsAg(-) HBsAb(-) (08/05)	HBsAg(-) HBsAb(-) (08/05)	HBsAg(-) HBsAb(-) (08/05)	HBV-DNA(-) (08/06)	HBV-DNA(+) (09/01)	陰性(輸血期間中) 陽性(輸血後)	保管検体23本 全部HBV-DNA(-)	100単位	19/23(18 人はHBsAg陰性、1 人はHBsAb陽性、1 人はHBsAb陰性) 調査結果を当 受けより副作 用・感染症と 輸血血液との 因果関係あり と考える」との コメントが得ら れた。	14本の原 料血漿を 原料血漿は3本 破棄され て、2本破 棄すみ。 抗原性 度あり、 であり、 当該献血 時間にお いても同 様であつ た。)	未回復												
3-001 0800 3/4 3	A- 0857	2009/3/18	2009/3/18	女0	外傷・整形外科的疾患 人赤血球濃厚液(放射線照射) 新鮮凍結人血漿-LR	B型肝炎	08/11 -12 08/11	HBsAg(-) HBsAb(+) (08/11)	HBsAg(+) HBsAb(-) (08/11)	HBsAg(-) HBsAb(-) (08/11)	HBV-DNA(+) (08/11)	-	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体7本 全部HBV-DNA(-)	1/7 (HBV検査陰性)	赤血球濃厚液-LR は1本は医療機器へ供給 のみ。	重篤	調査中												
3-002 0800 3/4 3	A- 0857	2009/3/18	2009/3/18	女0	人赤血球濃厚液(放射線照射) 新鮮凍結人血漿-LR	外傷・整形外科的疾患	08/11 -12 08/11	HBsAg(-) HBsAb(+) (08/11)	HBsAg(+) HBsAb(-) (08/11)	HBsAg(-) HBsAb(-) (08/11)	HBV-DNA(+) (08/11)	-	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体7本 全部HBV-DNA(-)	1/7 (HBV検査陰性)	赤血球濃厚液-LR は1本は医療機器へ供給 のみ。	重篤	調査中												
20																														

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	患者性別	原疾患年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	備考	併用血液製剤等	使用単数	供血者再献血※	同一供血使用者製剤保※	感染等転帰	転帰	供血者発見の場所及び保管検査の結果(抗原、抗体)(投与時点)
3-001	A-08005	2009/3/5	2009/3/18	女	小板濃厚液(放射線照射)			HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) HBcAb(+)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBcAb(+)	HBV-DNA(+) (09/03)	HBV-DNA(-) (08/05)			5単位	8/10 (HBV陽性)	回復	後遺症あり		
3-002	A-08595	2009/3/11	2009/3/24	女	B型肝炎 循環疾患	08/05 08/05 08/05	08/05 08/05 08/05	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBcAb(+)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBcAb(+)	HBV-DNA(+) (09/03)	HBV-DNA(-) (08/05)			6単位	8/10 (HBV陽性)	回復	後遺症あり		
3-003	A-08627	2009/3/11	2009/3/24	女	B型肝炎 血液腫瘍	08/09 09/01 09/01	08/09 09/09 09/01	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBcAb(+)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBcAb(+)	HBV-DNA(-) (08/09)	HBV-DNA(-) (08/07)			2単位	9/21 (HBV陽性)	重篤	未回復		
3-004	A-09004	2009/4/3	2009/4/14	男	外傷・整形外科的疾患	08/11 08/11 09/03 09/03	08/11 08/11 09/03 09/03	HBsAg(+) HBsAb(+) HBcAb(+) IgM-HBcAb(+)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBcAb(+)	HBV-DNA(+) (08/11)	HBV-DNA(-) (08/11)			4単位	11/37 (HBV陽性)	軽快			
3-005	A-09004	2009/4/3	2009/4/14	男	新鮮凍結人血漿-LR 人赤血球濃厚液(放射線照射)			HBsAg(+) HBsAb(+) HBcAb(+) IgM-HBcAb(+)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBcAb(+)	HBV-DNA(+) (09/04)	HBV-DNA(-) (09/04)			10単位	22単位 42単位 75単位 10単位	23本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LR、11本の赤血球濃厚液-LRは全て医療機関へ供給済み。	重篤		
3-006	A-09004	2009/4/3	2009/4/14	男	新鮮凍結人血漿-LR 人赤血球濃厚液(放射線照射)			HBsAg(+) HBsAb(+) HBcAb(+) IgM-HBcAb(+)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBcAb(+)	HBV-DNA(+) (09/04)	HBV-DNA(-) (09/04)			10単位	22単位 42単位 75単位 10単位	23本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LR、11本の赤血球濃厚液-LRは全て医療機関へ供給済み。	重篤		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告領受日	患者性別	年齢	原疾患名	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	投与後検査(年月)	受血者個別NAT	献血者個別NAT	献血者再献血※	使用単数	備考	同一供血使用者製剤保※	感染等症候転帰	転帰	供血者発見の場所及び保管検査の結果(抗原、抗体、NAT)(投与時点)
3-09002 00202 2	A-0900 0020 2	2009/4/1	2009/4/14	女性	80	循環器疾患	B型肝炎	07/08	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (07/08)	HBsAg(+) (09/03)	—	—	保管検査 体2本 全部 HBV- DNA(-)	—	2本の原料血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。	未回復	供血者発見の場所及び保管検査の結果(抗原、抗体、NAT)(投与時点)
3-09001 00100 0	A-0900 0010 0	2009/2/6	2009/2/18	男性	60	血液腫瘍	B型肝炎	08/12	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(±) (08/12)	HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(-) (08/04)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(±) (08/12)	—	1/2(HBV関連検査陰性)	2本の原料血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。	未回復	供血者発見の場所及び保管検査の結果(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	
3-09001 00101	A-0900 00101	2009/2/9	2009/2/20	女性	60	人赤血球濃厚液(LR) 球濃厚液(放射線照射) -LR	その他の疾患	08/09	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/09)	HBsAg(+) (09/01)	HBV-DNA(+) (09/01)	—	5本の原料血漿、1本 の新鮮血漿-LR を製造、原 料血漿、新 鮮凍結血 漿-LRは全 て確保済 み。	4.6(HBV 関連検 査陰性)	45単 位	軽快	供血者発見の場所及び保管検査の結果(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	
3-09001 00101	A-0900 00101	2009/3/24	2009/4/7	女性	60	人赤血球濃厚液(LR) 球濃厚液(放射線照射) -LR	その他の疾患	08/09	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/09)	HBsAg(+) (09/03)	HBV-DNA(+) (09/03)	—	3本の原 料血漿、2 本の赤血 球濃厚液-LR を製造。	3本の原 料血漿、2 本の赤血 球濃厚液-LR を製造。	1人はHB s抗体の 陽性であり 当該献血 時におい ても同様 であつ た)	不明	供血者発見の場所及び保管検査の結果(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	
3-09001 00101	A-0900 00101	2009/2/9	2009/2/20	女性	60	人赤血球濃厚液(LR) 球濃厚液(放射線照射) -LR	その他の疾患	08/09	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/09)	HBsAg(+) (09/01)	HBV-DNA(+) (09/01)	—	2/5(1人 はHBV 関連検 査陰性、 1人はHB s抗体の 陽性であり 当該献血 時におい ても同様 であつ た)	2/5(1人 はHBV 関連検 査陰性、 1人はHB s抗体の 陽性であり 当該献血 時におい ても同様 であつ た)	重篤	供血者発見の場所及び保管検査の結果(抗原、抗体、NAT)(投与時点)		
3-09001 00101	A-0900 00101	2009/3/24	2009/4/7	女性	60	人赤血球濃厚液(LR) 球濃厚液(放射線照射) -LR	その他の疾患	08/09	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/09)	HBsAg(+) (09/03)	HBV-DNA(+) (09/03)	—	11本の原 料血漿を 製造。	11本の原 料血漿を 製造。	原料血漿 は全て使 用済み。	重篤	供血者発見の場所及び保管検査の結果(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	
3-09001 00101	A-0900 00101	2009/3/24	2009/4/7	女性	60	人赤血球濃厚液(LR) 球濃厚液(放射線照射) -LR	その他の疾患	08/09	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/09)	HBsAg(+) (09/03)	HBV-DNA(+) (09/03)	—	4単 位	10/11 (HBV関 連検査 陰性)	未回復	供血者発見の場所及び保管検査の結果(抗原、抗体、NAT)(投与時点)		
3-09001 00101	A-0900 00101	2009/3/24	2009/4/7	女性	60	人赤血球濃厚液(LR) 球濃厚液(放射線照射) -LR	その他の疾患	08/09	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/09)	HBsAg(+) (09/03)	HBV-DNA(+) (09/03)	—	4単 位	90単 位	重篤	供血者発見の場所及び保管検査の結果(抗原、抗体、NAT)(投与時点)		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	患者性別	原疾患名	感染症年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	受血者個別NAT	献血者個別NAT	献血者備考	併用血液製剤等	供血者再献血※	使用単数	同一供血使用者製剤保※	同一供血使用者製剤保※	感染等転帰	転帰	供血者発見の場所	供血者発見の場所の保管検査(抗原、抗体、NAT)(投与時点)
3-09002205	A-09002205	2009/4/6	2009/4/20	男0	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	B型肝炎	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/12)	HBV-DNA(+) (09/03)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/12)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/12)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/12)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/12)	10単位	1/5 (HBV陽性) 連検陰性)	5本の原料 血漿を製 造。原糞血 漿は全て 確保済み。	重篤	軽快	供血者発見の場所	供血者発見の場所の保管検査(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	
陽転未確認事例																				
3-0900104	A-0900104	2009/3/5	2009/3/18	男0	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	B型肝炎	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (05/03-08/08)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBcAb(-) (05/03-08/08)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (05/03-08/08)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (05/03-08/08)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (05/03-08/08)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (05/03-08/08)	-	調査なし	保管検査 体3本 全部 HBV- DNA(-)	2/3 (HBV陽性) 連検陰性)	2本の原料 血漿、2本 の新鮮凍結 血漿を製 造、原料 血漿は1本 確保済み。	非重篤	調査中	原料血漿 は1本使 用済み。 新鮮凍結 血漿は全 て医療機 関へ供給 済み。
3-0900144	A-0900144	2009/3/5	2009/3/18	男0	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	B型肝炎	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (06/04-09/02)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBcAb(-) (06/04-09/02)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (06/04-09/02)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (06/04-09/02)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (06/04-09/02)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (06/04-09/02)	-	調査なし	保管検 査 体3本 全部 HBV- DNA(-)	4.単位 2/3 2単位	2本の原料 血漿、2本 の新鮮凍結 血漿を製 造、原料 血漿は1本 確保済み。	重篤	調査中	原料血漿 は全て使 用済み。 新鮮凍結 血漿は全 て医療機 関へ供給 済み。
3-0900266	A-0900266	2009/4/8	2009/4/21	男0	新鮮凍結人血 漿人赤血 球濃厚 液(放射 線照射)	B型肝炎	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) IgM-HBcAb(-) (06/04-09/03) HBsAg(+) (09/04)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBcAb(-) (06/04-09/03) HBsAg(+) HBcAb(+) IgM-HBcAb(-) (09/03) HBsAg(+) (09/04)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) IgM-HBcAb(-) (06/04-09/03) HBsAg(+) (09/04)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) IgM-HBcAb(-) (06/04-09/03) HBsAg(+) (09/04)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) IgM-HBcAb(-) (06/04-09/03) HBsAg(+) (09/04)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) IgM-HBcAb(-) (06/04-09/03) HBsAg(+) (09/04)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) IgM-HBcAb(-) (06/04-09/03) HBsAg(+) (09/04)	10単位 4単位	5/7 (HBV陽性) 連検陰性)	7本の原料 血漿、1本 の新鮮凍結 血漿、5 本の赤血 球MAPを 製造。	重篤	不明	原料血漿 は全て使 用済み。 新鮮凍結 血漿は全 て医療機 関へ供給 済み。	
輸血によるHCV感染報告例(疑い例を含む。)																				
供血者陽性事例																				
(該当例なし)																				

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	患者性別	原疾患名	感染症年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	献血者再献血※	使用単数	同一供血使用者製剤保有	同一供血使用者製剤確認	感染等症候転帰	転帰	供血者発見の場所	供血者発見の場合の保管検査の結果(抗原、抗体)(投与時点)	
陽転事例																					
3-09002	A-09002	2009/3/31	2009/4/14	男	人赤球濃厚液(放射線照射)-LR	C型肝炎	08/10-11	HCV-Ag(-) (09/01) HCV-Ab(+) (09/03) HCV-RNA(+) (09/03)	HCV-RNA(+) (09/03)	HCV-Ab(-) (06/11)	HCV-Ag(-) (09/01) HCV-Ab(+) (09/03) HCV-RNA(+) (09/03)	-	16単位	3/9(HCV 関連検査陰性)	9本の原料 血漿を製 造。原 料血 漿はす べて確 保済 み。	非重篤	未回復				
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																					
3-09001	2009/2/16 2009/2/27 FAX報告破棄	2009/2/16 2009/2/27 FAX報告破棄	女	人赤球濃厚液(放射線照射)-LR	外傷・整形外科的疾患	90	HCV-Ag(+) (09/02) HCV-Ab(-) (09/02)	HCV-Ag(-) (08/10)	HCV-Ag(-) (08/10)	HCV-Ab(-) (08/10)	HCV-Ag(+) (09/02) HCV-Ab(-) (09/02)	-	0/3	2本の原料 血漿、1本 の新鮮凍 結血漿-LR を製造、原 料血 漿は全 て確 保済 み。	非重篤	不明					
3-09002	2009/4/3 2009/4/15 FAX報告破棄	2009/4/3 2009/4/15 FAX報告破棄	女	人赤球濃厚液-LR	C型肝炎	70	HCV-RNA(+) (08/12) HCVコアAg(+) (09/02) HCV-Ab(+) (09/02)	HCV-Ag(+) (08/11)	HCV-Ag(+) (08/11)	HCV-Ag(+) (08/11)	HCV-RNA(+) (08/11)	-	0/3	3本の原料 血漿を製 造。原 料血 漿は全 て確 保済 み。	非重篤	軽快					
陽転未確認事例																					
3-09003																					
(該当例なし)																					
該当例なし																					
輸血によるHIV感染報告例(疑い例を含む。)																					

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	患者性別	年齢	原疾患名	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	投与施設	輸血による細菌等感染症告列(疑い例を含む。)	備考	献血者個別NAT	受血者個別NAT	日赤投与後検査	日赤投与前検査	使用単数	供血者再献血※	同一供血使用者製剤保※	同一供血使用者製剤保※	感染症等転帰	転帰	供血者発達の供血者発達の供血者の場合の保管検査(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	
3-A-0890 0850	0890 0850	2009/1/29	2009/2/10	女	0~0	細菌感染 その他の疾患	人血小板濃厚液(放射線照射)			在胎4週3日457gの出生超低出生体重兒。人工呼吸管理。													

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	患者性別	患者年齢	原疾患名	感染症名	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	投与後検査(年月)	受血者個別NAT	献血者個別NAT	献血者備考	併用血液製剤等	使用単数	供血者再献血※	同一供血使用者製剤保※	同一供血使用者製剤保※	同一供血使用者製剤保※	同一供血使用者製剤保※	感染症等転帰	転帰	供血者発見の場所(抗原、抗体(NAT)検査時点)	供血者発見の場所(抗原、抗体(NAT)検査時点)
3-090108616	A-080003/9	2009/3/23	2009/3/23	小女	6	血液濃厚液(放射線照射)	細菌感染	09/03	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

事務連絡
平成21年4月16日

日本赤十字社血液事業本部 御中

薬事・食品衛生審議会血液事業部会事務局
厚生労働省医薬食品局血液対策課

血液製剤に関する報告事項について

血液事業の推進に御努力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、標記につきましては、平成21年1月14日付け血安第7号にて貴社から報告を頂いたところですが、平成21年5月14日（木）に平成21年度第1回血液事業部会運営委員会が開催されますので、下記の事項について資料を作成いただき、平成21年4月21日（火）までに当事務局あて御提出いただきますようお願いします。記の11については、平成21年2月10日開催平成20年度第4回血液事業部会運営委員会提出資料を更新のうえ、再度御提出ください。

なお、資料の作成に当たっては、供血者、患者及び医療機関の名称並びにこれらの所在地又はこれらの事項が特定できる情報を記載しないよう、個人情報及び法人情報の保護に特段の御配慮をお願いします。

記

1. 平成15年9月5日付で報告された輸血用血液製剤でHIVの感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
2. 平成16年3月22日付で報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
3. 平成16年11月26日付で報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る8人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
4. 平成17年1月12日付で報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検

試行的 HEV20 プール NAT 実施状況について
(輸血後 HEV 感染の予防対策)

1. 試行的 HEV20 プール NAT 実施状況

北海道赤十字血液センター管内
調査期間：平成 17 年 1 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日

	献血者数	HEV-RNA 陽性	陽性率
H17. 1～H18. 2 ^{*1}	341, 174	45	1/7, 582
H18. 3～H21. 3 ^{*2}	822, 613	103	1/7, 987
合計	1, 163, 787	148	1/7, 863

*1 北海道センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体も含む)

*2 血漿分画センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体は除く)

2. HEV-RNA 陽性献血者の内訳

別添

2. HEV-RNA陽性者の内訳

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		間診 該当 ※1	喫食歴調査		週及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG		肉の種類	食べ方		
1	2005/01/04	32	M	57	-	-	無	不明レバー	生	無	
2	2005/02/07	38	F	11	-	-	+	無	生	無	
3	2005/02/13	41	M	103	-	-	+	無	回答なし	無	
4	2005/03/25	65	F	17	-	-	+	無	回答なし	無	
5	2005/03/27	26	M	38	-	-	+	有	不明レバー(問診時)	生	有
6	2005/04/10	54	F	20	-	-	+	無	ウシ精肉	半生	無
7	2005/04/15	59	F	16	-	-	+	無	ブタホルモン、シカ精肉	十分加熱	無
8	2005/04/15	35	F	16	-	-	+	無	シカ精肉、ウシ精肉、ヒツジ精肉	半生	無
9	2005/04/20	25	M	24	+	+	+	無	ウシレバー、ウシ精肉 ウシホルモン、ヒツジ精肉	十分加熱 半生	有
10	2005/04/28	22	M	44	-	-	+	無	ウシ精肉 ウシホルモン、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無
11	2005/06/07	42	M	24	+	+	+	無	ウシ精肉 ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	有
12	2005/06/22	51	M	52	-	-	+	無	ウシ精肉 ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	無
13	2005/07/03	58	M	219	+	+	+	無	不明レバー、ブタ精肉	十分加熱	無
14	2005/07/05	22	M	23	+	-	+	無	ウシ精肉 ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	無
15	2005/07/05	38	M	15	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	半生	無
16	2005/07/13	24	M	19	-	-	+	無	ウシレバー	原疾患により死亡	
17	2005/09/02	33	M	49	-	-	+	無	ウシ精肉 ヒツジ精肉 ブタホルモン、ブタ精肉	半生 十分加熱	無
18	2005/09/01	29	F	100	+	+	+	無	ウシホルモン、ヒツジ精肉 ウシレバー、ウシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無
19	2005/09/20	42	M	31	-	-	+	無	ブタホルモン、不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有
20	2005/09/27	20	F	10	-	-	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無
21	2005/10/21	41	M	12	-	-	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無
22	2005/10/25	44	F	38	+	+	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無
23	2005/11/07	30	F	21	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無
24	2005/11/07	31	F	12	+	+	+	有	ブタレバー、ブタホルモン、ウシ精肉	十分加熱	無
25	2005/11/20	28	M	47	+	+	+	有	ウシ精肉、ウマ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無
26	2005/11/29	35	F	333	+	+	+	有	ウシ精肉、ヒツジ精肉 不明レバー、ブタ精肉	半生 十分加熱	有
27	2005/12/13	42	M	30	-	-	+	有	ウシ精肉、ヒツジ精肉 不明レバー	半生 十分加熱	有
28	2005/12/13	30	M	11	-	-	+	有	HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み)	無	
29	2005/12/22	62	F	14	-	-	+	無	回答なし	無	
30	2005/12/27	42	F	14	-	-	+	無	回答なし	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)		HEV抗体		間診 該当 ※1	喫食歴調査		受血者情報
				IgM	IgG				肉の種類	食べ方	
31	2006/01/02	22	F	12	-	+	+	有	ウシレバ、ウシ精肉	十分加熱	無
32	2006/01/06	68	M	23	-	-	+	無	ウシレバ、ブタホルモン、ヒツジ精肉	半生	無
33	2006/01/13	36	M	42	-	-	+	無	ウマ精肉、不明レバー、 ウシ精肉、ヒツジ精肉、 ウシレバ、ブタ精肉、ブタホルモン	半生	無
34	2006/01/18	53	M	238	+	+	+	有	ウシレバ、ウシホルモン	十分加熱	無
35	2006/01/13	31	M	43	-	-	+	有	不明レバー、 ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生	無
36	2006/01/17	48	M	25	-	-	+	無	回答なし	十分加熱	無
37	2006/01/25	52	M	25	-	-	+	無	不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有
38	2006/01/30	39	F	22	-	-	+	無	回答なし	十分加熱	無
39	2006/01/30	25	M	32	-	-	+	有	ウシ精肉、ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	無
40	2006/02/02	39	F	35	-	+	+	有	ウシレバ、 ウシレバ、 ヒツジ精肉	半生	無
41	2006/02/07	57	M	13	-	-	+	無	不明	十分加熱	無
42	2006/02/07	40	F	172	+	+	+	無	ウシ精肉	十分加熱	無
43	2006/02/17	39	M	28	-	-	+	無	ブタホルモン、ブタレバー、ブタガツ、ヒツジ精肉	半生	無
44	2006/02/20	58	M	22	-	-	+	無	ヒツジ精肉	十分加熱	無
45	2006/02/21	45	M	30	-	-	+	無	ウシ精肉、 ブタ精肉、ブタレバー、ヒツジ精肉	半生	無
46	2006/03/01	46	F	15	-	-	+	無	回答なし	十分加熱	無
47	2006/03/01	50	F	29	-	-	+	無	回答なし	半生	無
48	2006/03/02	54	M	47	+	+	+	無	ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)、ヒツジ精肉	十分加熱	無
49	2006/03/27	40	F	12	-	-	+	無	回答なし	半生	無
50	2006/04/01	31	F	16	-	-	+	無	ヒツジ精肉	半生	無
51	2006/04/04	30	F	14	-	-	+	無	ブタ精肉、不明レバー	十分加熱	無
52	2006/04/12	38	M	45	+	+	+	無	ブタレバー、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無
53	2006/04/18	21	M	26	-	-	+	無	ウシ精肉、ウシホルモン ウシ精肉、ウシホルモン	半生	無
54	2006/04/22	28	M	14	+	+	+	無	回答なし	十分加熱	無
55	2006/04/26	46	M	19	-	-	+	無	ブタレバー	半生	無
56	2006/05/18	62	M	27	-	-	+	無	ヒツジレバー	十分加熱	無
57	2006/07/07	17	M	33	-	-	+	無	回答なし	半生	無
58	2006/07/11	34	F	10	-	-	+	無	回答なし	半生	無
59	2006/07/12	21	F	27	-	-	+	無	回答なし	半生	無
60	2006/07/22	49	M	46	+	-	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)		HEV抗体 IgM IgG		HEV RNA	間診 該当 ※1	喫食歴調査		受血者情報
										肉の種類	食べ方	
61	2006/08/01	62	M	18	-	-	+	/	/	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無
62	2006/09/06	44	F	14	-	-	+	/	/	ウシ精肉	十分加熱	無
63	2006/09/29	68	M	15	-	-	+	/	/	ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無
64	2006/10/21	29	M	22	-	-	+	/	/	不明	無	
65	2006/11/19	48	M	58	-	-	+	/	/	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無
66	2006/11/23	54	M	18	-	-	+	/	/	回答なし	無	
67	2006/12/01	43	M	55	-	+	+	/	/	ブタ精肉	十分加熱	無
68	2006/12/04	60	M	46	+	+	+	/	/	ウシ精肉	十分加熱	無
69	2006/12/04	47	M	40	+	+	+	/	/	ウシ精肉、ウシホルモン	十分加熱	無
70	2007/03/01	33	M	41	-	-	+	/	/	ウシレバ	生	無
71	2007/03/15	42	M	32	-	+	+	/	/	ブタレバー、ブタホルモン	半生	無
72	2007/03/27	55	M	30	-	-	+	/	/	不明レバー	十分加熱	無
73	2007/04/07	22	F	9	-	-	+	/	/	ユッケ ウシホルモン、ヒツジホルモン	生	無
74	2007/05/16	47	F	15	-	-	+	/	/	ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無
75	2007/05/18	40	F	27	+	+	+	/	/	ブタ生ハム(自家製)	半生	無
76	2007/05/30	33	M	26	-	+	+	/	/	ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無
77	2007/06/22	38	M	20	-	-	+	/	/	ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無
78	2007/06/25	45	M	37	+	+	+	/	/	ブタ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無
79	2007/06/27	37	M	18	-	-	+	/	/	ブタ精肉	十分加熱	無
80	2007/07/24	57	M	24	-	-	+	/	/	喫食歴なし	無	
81	2007/07/29	37	M	48	-	-	+	/	/	不明レバー、ブタホルモン 不明レバー、ブタホルモン	十分加熱 半生	無
82	2007/07/31	48	M	30	-	-	+	/	/	ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無
83	2007/08/01	48	M	33	-	-	+	/	/	ブタ精肉 ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無
84	2007/08/04	53	M	28	-	-	+	/	/	ヒツジ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱	無
85	2007/08/26	50	M	60	-	-	+	/	/	ヒツジ精肉 ウシ精肉	十分加熱 半生	無
86	2007/09/05	41	M	29	-	-	+	/	/	ウシ精肉、ブタ精肉、ウシホルモン、ブタホルモン	半生	無
87	2007/09/18	41	M	23	-	-	+	/	/	ブタホルモン	十分加熱	無
88	2007/09/21	57	M	19	-	-	+	/	/	ブタレバー、ブタ精肉	十分加熱	無
89	2007/10/03	59	M	39	-	-	+	/	/	喫食歴なし	無	
90	2007/10/03	19	M	40	-	-	+	/	/	ウシ精肉	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)		HEV抗体		間診 該当 ※1	喫食歴調査		週及対象 供給製剤	食べ方	受血者情報
				IgM	IgG	HEV RNA	肉の種類		食べ方				
91	2007/10/09	35	M	19	-	-	ブタ精肉		十分加熱	無			
92	2007/10/18	30	M	31	-	-	ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉		十分加熱	無			
93	2007/11/16	24	M	5	-	-	不明			無			
94	2007/11/16	54	M	22	-	+	ブタホルモン、ブタレバーバー		十分加熱	無			
95	2007/11/16	45	M	47	-	-	ブタ精肉 ブタレバーバー		十分加熱 半生	無			
96	2007/11/19	58	M	13	-	-	レバー、ホルモン		不明	無			
97	2007/11/19	24	M	46	-	-	不明			無			
98	2007/11/24	36	M	25	-	-	不明			無			
99	2007/11/29	42	M	21	-	+	不明			無			
100	2007/11/30	31	M	42	+	+	レバー		不明	無			
101	2008/01/08	35	M	36	-	-	ウシ精肉、ブタ精肉		十分加熱	無			
102	2008/01/17	48	F	13	+	+	ブタホルモン、シカ精肉		十分加熱 半生	無			
103	2008/01/29	57	M	22	-	+	ウン精肉		十分加熱	無			
104	2008/02/04	31	M	47	+	+	ブタレバーバー、ブタホルモン		不明				
105	2008/02/06	57	M	20	-	-	ブタホルモン		十分加熱	無			
106	2008/02/13	42	M	35	-	-	不明レバーバー		十分加熱	無			
107	2008/02/13	60	M	37	+	+	不明			無			
108	2008/03/11	30	M	21	-	-	不明			無			
109	2008/03/25	34	F	26	-	-	喫食歴なし			無			
110	2008/03/26	32	M	41	+	+	ブタ精肉、ウシ精肉		十分加熱	無			
111	2008/03/29	54	M	26	-	-	ブタ精肉		十分加熱	無			
112	2008/03/30	19	F	9	-	-	不明レバーバー		十分加熱	無			
113	2008/04/16	48	M	13	-	-	不明			無			
114	2008/05/12	33	M	12	-	-	ブタ精肉、ブタホルモン		半生	無			
115	2008/05/28	39	F	29	-	-	不明			無			
116	2008/05/28	47	M	46	-	-	ブタホルモン		十分加熱	無			
117	2008/06/04	43	M	38	+	+	ウシレバーバー ウシホルモン、ウシ、ブタ、ヒツジ精肉		半生	無			
118	2008/06/07	42	M	11	-	-	ウシレバーバー		十分加熱	無			
119	2008/06/23	48	M	17	-	-	ウシ、ブタ、ヒツジ精肉		半生	無			
120	2008/07/10	39	M	32	-	-	ウシ、ブタ、ヒツジ精肉		半生	十分加熱	無		

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		間診 該当 ※1	喫食歴調査		受血者情報
					IgM	IgG		肉の種類	食べ方	
121	2008/07/11	39	M	28	-	-	+	不明		無
122	2008/07/26	34	M	35	-	-	+	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無
123	2008/07/27	36	M	45	-	-	+	不明		無
124	2008/07/30	24	M	10	-	-	+	不明		無
125	2008/08/20	19	M	17	+	-	+	不明		無
126	2008/09/03	30	M	28	-	-	+	不明		無
127	2008/09/08	35	M	16	-	-	+	不明		無
128	2008/09/09	23	F	24	-	-	+	ブタ、ヒツジ精肉	十分加熱	無
129	2008/09/16	33	F	18	+	+	+	不明		無
130	2008/09/16	58	M	21	-	-	+	不明		無
131	2008/09/17	62	M	37	-	-	+	ウシレバー、ブタレバー	十分加熱	無
132	2008/09/23	42	M	36	-	-	+	ブタ精肉、ブタレバー	十分加熱	無
133	2008/09/25	35	M	16	-	-	+	不明		無
134	2008/09/27	30	M	22	-	-	+	不明		無
135	2008/10/10	50	M	31	-	-	+	ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	不明	無
136	2008/10/11	39	F	15	-	-	+	ウマ精肉	生	無
137	2008/10/14	56	M	13	-	-	+	不明レバー	生	無
138	2008/10/18	38	F	23	-	-	+	不明		無
139	2008/11/03	37	M	22	-	-	+	ウシホルモン、ブタ精肉	半生	無
140	2008/11/11	41	F	11	-	-	+	不明		無
141	2008/12/05	52	M	18	-	-	+	ブタレバー	十分加熱	無
142	2008/12/20	47	M	22	-	-	+	ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	十分加熱	無
143	2009/01/13	50	M	27	-	-	+	ウシ・ブタ精肉、レバー、ホルモン	十分加熱	無
144	2009/01/27	55	M	17	-	-	+	不明		無
145	2009/02/11	37	M	28	-	-	+	不明ホルモン	十分加熱	無
146	2009/02/16	59	F	23	-	-	+	ブタレバー	不明	無
147	2009/02/23	20	F	42	-	+	+	ウシ・ブタ精肉	半生	無
148	2009/03/11	29	M	49	-	-	+	ブタレバー、ホルモン	十分加熱	無

※1:間診喫食歴調査内容
 05年 1月1日～05年10月31日「過去3ヶ月以内にブタ、シカ、イノシシあるいは動物種不明の生肉、生レバーの喫食歴」
 05年11月1日～06年03月31日「過去3ヶ月以内に生肉(半生も含む)、レバー、ホルモン(動物種、なお本調査は06年03月31日をもって終了

査結果。来訪がなければ、その旨。

5. 平成17年2月4日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
6. 平成17年6月23日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
7. 平成18年4月7日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る9人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
8. 平成18年6月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
9. 平成19年2月20日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
10. 平成18年2月15日報告、3月8日付けで追加報告された輸血用血液製剤でHCV（C型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る3人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
11. 試行的HEV20プールNATについて、その後の調査実施状況。

血安第185号
平成21年4月21日

厚生労働省医薬食品局血液対策課長様

日本赤十字社
血液事業本部長

血液製剤に関する報告事項について（回答）

平成21年4月16日付事務連絡によりご依頼のありました標記の件については、下記により回答いたします。

記

1. 平成15年9月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHIVの感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る2人のその後の来訪なし。（8名中6名が来所、検査は全て陰性）
2. 平成16年3月22日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る5人のその後の来訪なし。（37名中32名が来所、検査は全て陰性）
3. 平成16年11月26日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る8人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 1人がその後献血に協力頂き、検査は陰性。残る7人の来訪なし。（48名中41名が来所、検査は全て陰性）
4. 平成17年1月12日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る4人のその後の来訪なし。（16名中12名が来所、検査は全て陰性）
5. 平成17年2月4日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

⇒ 残る1人のその後の来訪なし。(追跡調査対象の4名中3名が来所、HBV-DNAは全て陰性。1名はHBc抗体がEIA法のみ陽性HI法陰性、その他の者は全て陰性)

6. 平成17年6月23日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

⇒ 残る4人のその後の来訪なし。(20名中16名が来所、検査は全て陰性)

7. 平成18年4月7日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る9人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

⇒ 残る9人のその後の来訪なし。(53名中44名が来所、HBV-DNAは全て陰性。2名はHBc抗体及びHBs抗体陽性、1名はHBs抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性)

8. 平成18年6月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

⇒ 1人がその後献血に協力頂き、検査は陰性。残る1人の来訪なし。(29名中28名が来所、HBV-DNAは全て陰性。2名はHBc抗体及びHBs抗体陽性、1名はHBs抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性)

9. 平成19年2月20日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

⇒ 残る1人のその後の来訪なし。(3名中2名が来所、検査は全て陰性)

10. 平成18年2月15日報告、3月8日付けで追加報告された輸血用血液製剤でHCV（C型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る3人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

⇒ 残る3人のその後の来訪なし。(81名中78名が来所、検査は全て陰性)

11. 試行的HEV20プールNATについて、その後の調査実施状況。

⇒ 別紙のとおり

安全対策業務の流れ

